環境大臣賞受賞

「四季を彩る金谷山の里山づくり」を目指して

金谷山さくら千本の会　会長　相澤　紀（樹木医）

還暦を機に

昭和三十五年三月大きな夢を背負って高田高校の校門をあとにした青年達は、夫々色んな人生行路を歩み、平成二四年に還暦を迎えました。この年、仲間達と毎年登っていた登山を還暦記念として浅草岳に挑み、その折に皆が辿った道を振り返りながら若き日の情熱を呼び戻し、お世話になった故郷に何か小さな恩返しが出来ないかと相談しました。

仲間達の共通の話題は、スキー授業で冬になると毎週一回、午後の半日が体育の時間が組まれ、学校を出ての授業は楽しみの時間でありました。その舞台、日本スキー発祥の地「金谷山」は冬になると子供から大人まで多くの市民がスキーを楽しみ、大変な賑わいでした。

この金谷山を皆が汗しながら桜を植え、育て平成の花咲か爺さんになろうではないかということで衆議一決となりました。

金谷山の里山は

今、各地で里山が荒廃していると言われています。上越地域においても昭和三十年から四十年代にかけて里山の雑木林は薪炭林として利用されることで森の健全性が保たれて来ました。

しかし、その後は利用が途絶えてしまい、人と森との係わりが無くなり放置されるがままの状態になりました。金谷山の里山も放置されてすでに四十年近くが経過し、雑木林は過密の状態になってしまい、子供達が栗拾いで森をかけ巡る元気な声が聞こえなくなってしまいました。そして老齢過熟の森は松食い虫やカシノナガキクイムシのダメージを受け続け、今こそ人と里山が色々な係わりの中で健全性を保って行くことが、再び強く求められる時代になっていると感じております。

また、森林の伐採が自然破壊だと言われる社会にあって、里山林は人との係わりの中で維持されてきたものであり、これからも人による管理、適度な伐採と植樹が里山林の再生に欠くことの出来ないことだと思っています。

健全な里山林を造りあげていくには、その里山の環境により色々な手法が考えられますが、私達は、藪状態になった金谷山の里山で、歩道を切り拓き、藪を刈り払い、雑木を伐採して桜を植え、育てることで蘇らそうと考えました。

第８回さくら植樹祭

汗することに喜びを感じて

活動の場所は、白旗山ゲレンデから向山ゲレンデに囲まれた二・五ヘクタールの雑木林で、中心部には昭和三十年頃まで使われていたジャンプ台があり、今でも鉄骨の審判台が残っています。

平成十四年十月に地主さんや行政の御理解を頂いて活動をスタートさせ、第一回植樹祭を行い、翌年からは毎年四月から十一月までの毎月の第二日曜日を定例活動日として活動を続けています。

その活動も当初は藪ごぎの連続とランディングバーンの急斜面への植樹で足を取られながら三メートルの若木を植えることは還暦過ぎの肉体には応える作業でしたが、それでも残っていた若いエネルギーで「口を出さずに汗を出す」をモットウに参加者全員は、黙々とこなして来ました。

これまでに三八四本の桜を植樹してきましたが、この他にも水辺を整備してミズバショウを植えたり、藪を刈り払った跡に雪割草を植えたり、伐採した雑木を利用してベンチや小上がりを作ってきました。この作業も悪戦苦闘の連続でした。

それでも植えた桜が花を咲かせ、蘇ったカタクリや植えた雪割草が春の山を染めてくれると作業に汗したことの喜びを

感じ、楽しみにも変わり今では仲間達の生活のリズムになってきています。

これまでの主な活動実績

・ヤマザクラ、オオヤマザクラ、エヒガン等十八品種三八四本植樹
・遊歩道八〇〇メートルの開設と修復
・癒しの広場、憩いの広場整備（丸太ベンチや小上がりの設置）
・水辺、湿地の整備（一三〇株のミズバショウの植え付け、メダカの放流）
・雪割草五四五株、菖蒲七二株の植え付け、伐採木を使ったナメコ造り
・上越市環境フェアーに参加して活動状況をパネルで紹介

これからの夢は

活動を始めて九年目、今年は四年振りの豪雪に見舞われ桜樹は大きな痛手を受けましたが、春にはこれまで以上の花を咲かせてくれましたし、ミズバショウも雪割草も山に彩りを添えてくれました。

これからは毎年、桜花**爛**漫と咲き誇り山を美しく彩ることでしょうし、その桜花の下で仲間達とこれまでの汗と笑いを語らいながら大観桜会で一層絆を深め、平成の花咲か爺さん、婆さんの気分になってみたいものです。

そして多くの市民にも桜を愛でていただけるように、桜樹を育てることに汗して行きたいと思っています。

これまでに上越市、新潟県から私達の活動を評価して頂き表彰を受けましたが、今年になって**日本さくらの会（会長横路衆議院議長）**から**「さくら功労者」**として、又**小沢環境大臣**から**「地域環境美化功績者」**として表彰され、会員一同大感激、これを糧に体の衰えを感じながらも地主さんや行政の御理解と御協力の下に活動を継続して「四季を彩る金谷山の里山づくり」に取り組んでいくことにしています。

会員の声

雪が消え、春の訪れとともに我々の活動が始まる。六十八、九歳の人がほとんど。長靴を履き、腰には作業用に鋸、鉈などを付け、スコップ、唐鍬やカケヤを肩に現場へ向かう。格好だけは一人前。

先ずは雪で傷んだ遊歩道や添木の修復など。辺りを見渡せば、密集、藪山だったところが相当すっきりし桜の幹が整然と並んで見える。カタクリの花は山の手入れをすればするほど一面に咲き誇り見事である。

夏の下草刈り、秋の植樹祭と作業は続く。

一年一年、年をとるが皆、精神年齢は若い。個性があり、口は達者。それでいて纏まりがある。

こういう人達と、緑の中でおいしい空気を吸いながら、程ほどの汗をかく。心身の健康保持に本当に役立っている。これからもずっと参加させて頂きたいと思っている。

（保坂勘作）

春に浮かれて大観桜会

豪雪にめげず、今年は咲いてくれました

4年振りの豪雪で倒伏した桜樹の復旧